



製薬協環境安全委員会では環境保全・労働安全衛生に関する情報共有化により、会員会社相互の意識向上と製薬会社ならではの環境安全対策技術の普及に努めています。情報は、で

きるだけ正確で新鮮なことも重要な要素です。環境安全委員会では、活動の状況や結果について可能な限り読みやすくタイムリーに情報発信することにも努めています。

● アンケート調査

環境安全委員会では、年度事業計画を策定し、その成果の評価を行っています。各専門部会では各種アンケート調査を実施することで、計画の進捗状況を把握し目標に対する達成度

を会員会社にフィードバックしています。会員各社では製薬業界の活動状況がわかることでベンチマークとするなどの活用をされています。

アンケート調査報告	報告年月	調査項目概要
環境・労働安全衛生マネジメントシステム導入及び営業車輛の事故に関するアンケート調査結果について	2005年11月	<ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメントシステム導入状況調査結果 ●労働安全衛生マネジメントシステム導入状況調査結果 ●営業車輛の事故に関する調査結果
2005年度環境関連報告書に関する調査結果報告	2005年12月	報告書の発行状況及び記載内容の読取調査
製薬企業の省エネルギー・温暖化対策調査報告	2005年12月	エネルギー使用量及びCO ₂ 排出量の年度推移、省エネルギー対策に関する集計、分析
製薬企業の廃棄物排出・削減報告書	2005年12月	廃棄物発生量及び最終処分量の推移、減量化、再資源化に関する集計、分析
2006年度PRTR調査結果報告	2005年10月	<ul style="list-style-type: none"> ●PRTR第1種指定化学物質の取扱量・排出量の状況 ●有害大気汚染物質自主管理物質の大気排出量

(注:2005年4月から2006年11月までの期間に実施した調査の内、2006年11月末現在の最新の結果報告について記載しています)

● 「かんきょうニュース」の発行

製薬協会員会社がアクセスできるPRAISE-NETは、「医薬品行政通知」(官公庁から発出の情報)、「お知らせ情報」(業界内部から発出の情報)のデータベースの他、会員向サイト、委員会情報等のサイトです。環境安全委員会では、総会や環境安全セミナー、技術研修会の開催に合わせ講演概要等を取りまとめた「かんきょうニュース」をタイムリーに作成しPRAISE-NETに掲載しています。



● 「成果報告集」の発行

環境安全委員会の活動の状況や結果については、会員各社で有用な情報として活用できるよう、調査報告書や「かんきょうニュース」で速やかに報告しています。これらの成果物は電子体で作成しPRAISE-NETに掲載する他、委員・専門委員にはe-mail配信で周知していますが、技術研修会・講演会資料

や画像資料等を加え、1年間の成果物として取りまとめCD-Rで会員会社に配布しています。

講演会資料は、環境安全委員会主催のセミナーや技術研修会で講演・発表を頂いた方々のご理解ご協力で収録、配布させて頂いています。

2005年度成果報告集は、2005年12月に発行しました。



● 環境セミナー・技術研修会の実施

環境セミナーは、国内政策や海外の動向、またCSRの推進等に関わる最新の知見を外部講師による講演を実施しています。会員会社の環境・安全担当に携わる経営層に役立つ情報提供を目指して、年2回開催しています。技術研修会では、各専門

部会が、様々な分野から外部講師を招致して環境技術等に関する情報の共有を図るとともに、会員会社相互の情報交換を促進するために、事例発表や工場見学等を行なっています。

第12回環境安全セミナー (2006年2月10日)		
産廃アウトローの構造と優良業者選定 ～優良化推進事業公開データ活用方法～	千葉県印旛地域整備センター 石渡 正桂 氏	 千葉県環境生活部産業廃棄物課で産廃Gメンとして不法投棄防止に大きな成果を挙げてきた実績をもとに、不法投棄の構造と対応策を解説。
医薬品の環境影響評価	(独)国立環境研究所 岩根 泰蔵 氏	 医薬品の環境影響評価について、環境研究の立場からと製薬サイドにおける指針の検討について解説。
第30回環境講演会 (2006年4月21日)		
トラブル・ゼロを実現する安全文化の構築	日本ヒューマンファクター研究所 石橋 明 氏	 高度なハイテク技術は利便性を高める一方で、そのシステムとそれを使う人間との間に新しいヒューマンインターフェイスの問題が起こっている。組織的な対応が必要。
技術研修会 (2006年7月28日)		
サステナビリティの科学的基礎に関する調査	日本大学 生物資源科学部教授 水谷 広 氏	 国内外170名を超える多様な分野にまたがる第一線の専門家の自主的協力と努力によって持続可能性の科学的知見の現状が一つにとりまとめられた。
エンゲージメントをデザインする～ステークホルダー参画によるCSR経営～	I/HOE「人と組織と地球のための国際研究所」 代表 川北 秀人 氏	 企業が社内外とのステークホルダーとの関係を、しっかりと構築し信頼され継続的に連携を図ることの位置付けや意味付けについて解説。
第10回省エネ・温暖化防止技術研修会 (2006年10月17日・18日)		
GMPに係る最新情報	製薬協GMP委員会 寶田 哲仁 氏	 改正GMPが施行されて2年目を迎えるが、当社のGMP改正後の対応状況事例を紹介しながら説明。また、最近のトピックでは、ICH Q9 Quality Risk ManagementやQ10 Pharmaceutical Quality Systemの状況と今後の動向等について報告。
医薬品の施設設計における省エネ・温暖化防止技術	日揮(株) 伊藤 公一 氏	 ●CO ₂ 排出量の現状紹介 ●省エネ、CO ₂ 排出量削減のための手法を熱源、空調、ユーティリティ一設備にわたって設計の観点で紹介 ●設計で意図した運転がされていることの確認および改善のためのBEMS(Building Energy Management System)の導入の必要性とコミッションング(性能検証)の考え方を紹介
製薬企業は排出権取引をどう活用すべきか	(株)日本総合研究所 三木 優 氏	 京都議定書の第一約束期間の開始が2年後に迫り、経団連環境自主行動計画の目標年度である2010年度も意識し始める時期となってきた。製薬業界の2004年度 CO ₂ 排出量実績では1990年度比+37.2%となり、総排出量の規模は小さいもののCO ₂ 排出量は大幅に増えている。医薬品は有効性・安全性・品質が最優先されることから、他の業種と比較してエネルギー消費量の削減が難しい側面がある。製薬業界としてはCO ₂ 排出量を削減していかなければならないものの、個々の企業ベースでは排出量がそれほど多くはないため、排出権取引やCDM等を積極的に利用することはなかった。このような状況において、今後、製薬企業は温暖化防止の取組としてどのような取組をすべきか、排出権取引の活用を中心に講演。
アステラスグループの環境安全活動の現状と将来	アステラス製薬(株) 竹縄 誠之 氏	 アステラス製薬が合併と同時に開始したCSR経営の現在の概況について紹介。アステラスの環境・安全衛生に関する行動計画、省エネルギー活動の現状、今後の見通し、省エネルギーコストと経済効果の考え方などについて説明。
改正省エネ法の解説と今後の省エネルギー政策について	経済産業省 資源エネルギー庁 安部 幸平 氏	 本年4月に施行された「改正省エネ法」について、同法で新たに追加された、荷主についての規制の内容を中心に法律全体の改正点や新たに追加された制度について解説、また、今後の省エネルギー政策についての説明。
温室効果ガス算定・公表制度と今後の地球温暖化対策	環境省 地球環境局 小野寺 秀明 氏	 平成18年4月1日より施行された地球温暖化対策推進法に基づく「算定・報告・公表制度」について、制度の概要と算定・報告の方法等を、事業者の立場に立って分かり易く解説。特に、電気の使用に代表されるエネルギー起源二酸化炭素の排出量の算定方法について詳しく説明。